

～確かな実績と圧倒的な行動力～

県立学校におけるトイレの洋式化とエアコン整備、前進！

水野質問と要望 衛生面や快適性の向上という観点のみならず災害時に学校が避難所となった際、学校のトイレが和式便器主体であるために高齢者や障がいのある方、妊婦などが使いにくく、我慢をしたことによって健康障害を招く事例もあった。県立学校におけるトイレの洋式化率は**57%**（2025年4月1日現在）にとどまっていることからスピード感を持ってトイレの洋式化を進めてほしい。さらに生徒たちが1日の大半を過ごす学校においては、深刻な猛暑から生徒を守るため、空調整備を急ぐべき。

前進！ トイレの洋式化：令和11年度までに全て完了するよう順次進める。

前進！ 空調整備：普通教室は完了。大規模改修で整備する一部学校を除き、職員室などの管理諸室は今年度中に完了予定。特別教室は令和10年度までに完了見込み。今年度から避難所に指定されている体育館も着手。

千葉県のヘルメット着用率6.5%、全国ワースト2位

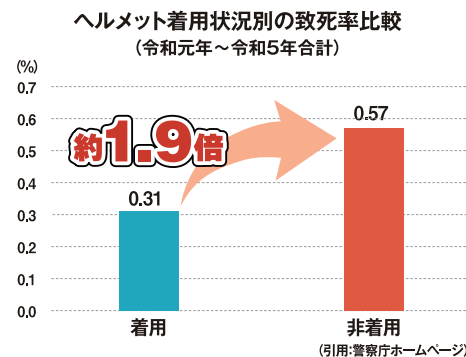
1位愛媛県69.3%と10倍以上の差 千葉県が低い要因は？

現状と課題

令和5年4月1日の改正道路交通法の施行により、すべての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となっています。令和5年の千葉県における全人身事故発生件数のうち、**自転車**が関係する交通事故は**3,289**件ののぼり、**自転車乗用中の死者数は17人**、そのうち**ヘルメットを着用していなかった人は15人**で、**非着用率は88.2%**です。自転車乗用中の交通事故による死者の約**6割**が頭部に致命傷を負っており、ヘルメットの着用は非常に重要です。**ヘルメット非着用時の致死率は着用時の約2倍高くなる**ことが警察庁の調べでわかっています。

水野質問 自転車乗車用ヘルメットの着用率が全国上位の自治体と比べて千葉県が低い要因について、どのように考えているのか。

答 弁 千葉県における調査では、着用しない理由として、持ち運びに不便、購入費用がかかる、髪型が乱れるなどが挙げられ、命を守るヘルメットの重要性について十分に浸透していない状況。ヘルメット着用率が全国上位の自治体では高校生を対象に、通学時の着用の義務化、購入費補助や配布などの取り組みが行われている。



自転車通学生徒のヘルメット義務付けしている県立高校はたったの2校…

水野指摘と要望 教育長の答弁により、自転車通学時にヘルメットの着用を義務付けている学校は、令和7年5月1日現在で**全県立高校121校中、2校のみ**ということがわかりました。非常に少ないことを指摘。東京都教育委員会では令和6年度から全ての都立学校において、自転車通学の際は必ずヘルメットの着用を求める方針を打ち出し、各学校の対応として、生徒の自転車通学に関する許可や届出において、登下校時の「乗車用ヘルメットの着用」を条件又は必須項目に加えることとしました。千葉県はモデル校の取り組みだけではなく、早急に全県的に拡大するよう要望しました。

水野ゆうき プロフィール

- 1983年2月19日生。我孫子市生まれ・育ち・在住。我孫子市立第四小学校入学。
- 父の転勤により小学3年で米国LAへ移住。ロサンゼルス現地小学校卒業。ロサンゼルスインターナショナルスクール編入。
- 日本に帰国後は茨城県私立茗溪学園中学校編入、同校高校卒。
- 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業（2005年）／津田塾大学卒業生ロールモデル120人に選出。民間企業に勤務後、2011年我孫子市議会議員選挙最年少当選（3,016票）。
- 2015年、2019年、2023年千葉県議会議員選挙3期連続当選（すべての選挙において無所属で当選）。

水野ゆうきへの
ご意見・応援メッセージは
公式ホームページまで

ホームページ



ブログ



Facebook



X



県を動かす我孫子市に！

討論資料

会派『千葉新政策議員団』代表 千葉県議会議員 我孫子市選出

千葉県議会報告
ゆう Can Change!
vol.60

みずの
水野 ゆうき 無所属

熊谷俊人知事の2期目再選後初の定例千葉県議会にて
会派『千葉新政策議員団』を代表し、代表質問を行いました。

水野ゆうきの代表質問はYouTubeから視聴できます

Youtube



千葉県政の関心を高める取り組みを！～東葛地域と若者の低投票率～

選挙の投票率の現状

今年3月の千葉県知事選挙の投票率は**31.93%**で、前回の選挙より**7.06**ポイント低くなりました。年代別の投票率は、**20歳代が20.14%**と最も低く、**70歳代が45.22%**と最も高くなっており、**千葉県は若い世代の投票率が低い傾向**にあります。さらに、東京都に隣接・近い東葛・葛南地域における千葉県知事選挙や千葉県議会議員選挙など千葉県に関する選挙の投票率は県内他地域と比較し、低投票率となっています。**2023年**に執行された千葉県議会議員選挙においても**35.99%**と前回よりも下回り、政治への無関心や議員のなり手不足が深刻化しています。

問題点

- 東葛・葛南地域に在住する千葉県民は都内への通勤・通学者が多く、千葉県政への関心が薄いだけでなく県政情報が届いていない。
- 千葉県の主要施設（博物館や美術館など）が政令指定都市の千葉市に集積している。距離的な遠さが県政への関心の低さとリンクしてしまっている。
- 選挙における投票環境が市町村によって異なり、投票しやすい環境整備に取り組む必要がある。
- 高校生への主権者教育が十分ではなく、県立高校における模擬選挙については**36.4%**（令和4年度実績）にとどまっている。

東葛飾地域へのアプローチ強化

水野質問 令和6年度の県政に関する世論調査では、葛南地域の県民から「千葉県政の情報をほとんど知らない」「もっと県民に県政について知ってもらえるような取り組みが必要」といった意見がでている。東京都に隣接する東葛・葛南地域の県民に千葉県の政策をどのように届けて行くのか。

答 弁 東葛・葛南地域の特性や課題を的確に把握し、県の政策に反映していき、このことを県ホームページや県民だより、SNSなど様々な手法で発信していく。

投票環境の向上

水野質問 投票時間の繰り上げや障がい者の投票などについて、選挙人の不利益に繋がらないよう投票環境を向上すべき。今回の知事選では、投票環境の向上に向けて市町村において新たにどのような取り組みがあったか。

答 弁 新たに、船橋市の高野台地区において移動手段を持たない選挙人向けにバスによる期日前投票所への移動支援を行ったほか、松戸市などでは、障害のある選挙人と円滑な意思疎通を図るため、投票所にコミュニケーションボードを設置するなど、誰もが投票しやすい環境づくりに取り組んだ。

高校生の主権者教育

水野質問 選挙権年齢を満18歳に引き下げる公職選挙法改正が成立し、高校に選挙権を有する生徒が在籍することから、民主主義を機能させるための主権者教育の重要性が増している。今後の日本の未来を担う若者に主権者としての意思を示す最大の政治行動である投票について理解を深め、政治に対する意識を高めていく取り組みを進めるべき。

答 弁 教科での学びに加え、実践的な経験もできるよう、各高校において県や市町村の選挙管理委員会等と連携した出前授業や模擬選挙を実施するなど主権者教育の一層の充実に努めていく。